

パブリックコメント(回答)

意見公募案件名	第2次五泉市環境基本計画
意見公募期間	平成29年12月1日(金)～平成30年1月5日(金)
問い合わせ先	五泉市環境保全課 TEL 0250-43-3911 (内線227・221)

【寄せられたご意見等の件数】

提出方法		件数	人数	新たに意見を反映した	既に取り組んでいる・説明
合計		8件	1人	4件 (1、2、3、7)	4件 (4、5、6、8)
内 訳	電子メール	8件	1人	/	/
	ファックス	0件	0人		
	郵送	0件	0人		
	持参	0件	0人		

【寄せられたご意見、ご要望とそれに対する市の考え方】

No.	寄せられたご意見	市の考え方
1	<p>P17に記載されている五泉市の調査で確認された希少種(全体31種・魚類7種)はデータが古く同時に調査が不足しており不完全と思われます。</p> <p>新潟県レッドデータブックに登録された希少種のうち、魚類では2種「ジュズカゼハゼ鳥海山周辺固有種(コシノハゼ)EN」、「カマキリ(アユカケ)NT」が早出川水系で生息しています。</p> <p>また、データリスト掲載のジュズカゼハゼ広域分布種、カジカ中卵型、アカザ、ウケクチウグイ、サクラマス(ヤマメ)の生息の可能性があります。</p> <p>国土交通省では「河川の水辺の国勢調査」をしており、植物では阿賀野川五泉地区の水辺に「フジバカマ(VU)」「タコノアシ</p>	<p>本計画の策定にあたり、希少種については、平成21年、22年に市が独自に行った生息調査の結果を掲載しました。</p> <p>この調査は期間・対象地域等を絞ったの調査であるため、五泉市全域の希少種を掲載したものではありません。</p> <p>しかし、今後10年間の計画を定めるにあたり、最新の生息状況を把握し計画書に記載することは重要であることから、ご意見のあった希少種について新潟県の「第2次レッドリスト」及び国土交通省の「河川の水辺の国勢調査」について確認のとれたものを追加します。</p> <p>また、それ以外の本市に生息すると思われる希少種については、今後、専門家・研究者・関係者の皆様からも協力をいただき市</p>

	<p>(VU)」などの希少植物が確認されていません。</p> <p>貝類では「マツカサカイ (NT)」「マルタニシ (NT)」などの生息を確認しています。さらに、トミヨ属淡水型 (俗称トゲソ) の生息にとって欠かせない「ミクリ (NT)」「ナガエミクリ (NT)」について記載がありません。</p> <p>これらについて、今わかる範囲で補正するため、専門家・研究者・関係者に聞き取りしていただき、確かめた上で希少種の確定を行ってほしいと思います。</p>	<p>全域を対象とした生物多様性に係る調査及び計画策定を実施する予定です。</p>
2	<p>P17 のデータは「新潟県レッドデータブック (平成 22 年度時)」とありますが、新潟県は 2015 年 10 月に第 2 次レッドリスト (淡水魚類・大型水生甲殻類編) の追加策定をしております。この報告では名称変更があるので、該当する希少種名を訂正すべきと思われます。</p>	<p>本計画での希少種名は、「新潟県レッドデータブック (平成 22 年)」に基づき市が独自に行った生息調査 (平成 21・22 年) 当時の名称を掲載したものです。No.1 の希少種の追加と合わせ、「第 2 次レッドリスト」に基づく名称に変更します。</p>
3	<p>P6 では計画の担い手として三者の協働が必要とされています。これからの取り組みは「市民や団体との協働」がポイントです。P60 でも基本目標として「環境課題をみんなで学び参加する協働のまちづくり」がとりあげられていますが、NPO等の記載がありません。</p> <p>新潟県環境基本計画でも「県民の参加・協働」部分で環境教育、環境保全活動の現状と施策においてNPO等との協力が不可欠と書かれています。</p> <p>市民との協働はNPOや地域環境団体を通しての協働がきっかけとなるものです。</p> <p>環境問題の取り組みには、NPOや地域環境団体との連携と係わりが必要と考えますが、NPOや地域環境団体との協働を記載すべきと思います。</p>	<p>環境保全活動に取り組む NPO や環境団体 (以下、「NPO 等」といいます。) は、行政と市民・事業者の架け橋となる存在であり、各主体の協働にあたって必要不可欠であると認識しています。</p> <p>第 2 次環境基本計画においては、五泉市環境基本条例が取り組みの主体として「市民」「事業者」「行政」の 3 者に区分していることから、本計画でもその 3 者の役割として大別しましたが、本計画を推進するためには、NPO等との協力が重要であることをより明確にするため、計画中にNPO等との連携について記載を追加します。</p>

4	<p>P61 では「エコスクール・フィールドワーク等環境イベントへの参加者数」が「平成 28 年度現況値 860 人、平成 39 年度は 1000 人」を目標値としています。エコスクール・フィールドワークを実施したとは、どのようなものなのでしょうか。</p> <p>また、前回の第 1 次環境基本計画との関連では「平成 18 年度現況値 58 人、平成 29 年度目標値 100 人」となっていました。このこととの関連はどうなのでしょう。数値的に大幅な成果となっていますが、とらえ方に違いはないのでしょうか。</p>	<p>P61 に記載した現況値については、市が実施したグリーンカーテン講習会のほか、東京都葛飾区と市内小学校が共同で行った能代川のサケマス観測会、市内小学校で行ったサケの産卵体験及び早出川クリーン活動等を合算したものとなっています。</p> <p>第 1 次計画との関連については、そもそもの環境イベントの内容が策定当時の 10 年前から変遷があり、事業をやめたものや新たに実施したイベント等があるため、第 2 次計画において指標を見直したものです。</p>
5	<p>P61 下段の「広報ごせんに掲載される環境関連記事数」は「現況値 22 件となり平成 39 年度目標値は 25 件」となっています。掲載記事とは、どのような長さや内容を想定しているのでしょうか。</p> <p>達成指標として「広報誌の掲載」を目標値としていますが第 2 次計画の目標値が第 1 次計画の現況値より下がっており数値が整合してないように見受けられます。</p> <p>新潟県は各種のイベントやエコライフコンテスト、環境リーダーの育成等を情報提供しています。これら情報提供はどのように紹介しているのでしょうか。広報誌だけでなくホームページ等なども含めた多様なツールでの情報提供を達成指標に加えるべきと思います。</p>	<p>掲載記事は、省エネ活動やリサイクルの呼びかけなど、様々なものがあります。</p> <p>今まで広報で呼び掛けていた記事について、市公式ホームページを活用したことにより掲載数が減少しましたが、ホームページに掲載すれば広報に掲載しなくてもよいということではなく、それを回復したいという趣旨です。</p> <p>また、ホームページは、アクセスしたいと思った人しか接触できないという側面もあり、定期的に市民に環境情報を呼び掛けるには、広報誌における記事を充実させるべきと判断したことから、広報誌における記事について達成指標としました。</p> <p>ホームページ等を含めた多様なツールについては、V-1 の市の役割に「五泉市ホームページにおいて環境関連情報の充実を図ります」と掲げており、これからもホームページの充実に努めます。</p> <p>新潟県の事業については、県より周知依頼があり、その都度小中学校やポスターの公共施設への掲示等、周知に努めており、今後も情報提供について積極的に協力します。</p>

6	<p>P57 では「環境セミナー」年間開催回数を「平成 28 年度現況値 1 回として平成 39 年度は 4 回」と目標値としています。</p> <p>環境セミナーとは、どのようなものなのでしょう。グリーンカーテン講習会が対象となっていると聞きましたが、今後は多様な担い手による環境フェスティバルのようなものが必要と思われる。</p>	<p>環境セミナーについては、グリーンカーテン講習会や、ごみ研修会でのリサイクル啓発など地球温暖化対策に関するイベントを想定しています。</p> <p>ご意見のあった環境イベントについても、今後、行政、市民、事業者及び NPO 等の役割分担や広く市民に啓発できる環境を勘案しながら開催に向け検討します。</p>
7	<p>前回の第 1 次五泉市環境基本計画が終了、今回の第 2 次計画の策定にあたり達成できた目標値、達成できなかった目標値をどのように総括しているのでしょうか。前述したように、目標値そのものが前回の基本計画と整合とれていない点が見受けられました。この審議や検討はどのようにされてきたのでしょうか。</p> <p>数値目標の変更などについて若干の説明が必要と思われる。</p>	<p>第 1 次計画の進捗状況については、平成 28 年度に達成状況等の基礎調査を実施し評価を行い、調査の結果をもとに総合的に施策の見直しを図り、個別施策及び施策体系の整理を行いました。</p> <p>第 1 次計画における数値目標と、第 2 次計画での数値目標の変更についても、これらの過程で施策の進捗状況や現状、新たな視点などを取り入れ再設定したものであり、補足説明を追加します。</p> <p>今後はここで設定した目標値の達成のため、各種施策を推進していきたいと考えます。</p>
8	<p>この五泉市環境基本計画を策定されるにあたっては、P87「五泉市環境審議会委員」P88「五泉市水と緑のまちづくり環境協議会」で審議されているようです。</p> <p>審議会構成を拝見すると直接環境課題と取り組んでいる方、河川環境にかかわっている方、生物多様性、E S D 教育に詳しいと思われる方、環境分野の専門家が少ないのではないかと考えられます。</p> <p>現在、協働の場を広げていくためには、さまざまな環境分野で市民や環境団体との協働が不可欠であると思われる。</p> <p>今後、公募委員を含め広く市民や環境活動団体を選出していく必要があると思われると思いますが、いかがお考えでしょうか。</p>	<p>本計画を推進するためには、市民や環境団体を含めさまざまな分野の方々との協働が重要です。</p> <p>今後も、市民や環境活動団体からの選出を含め、見直しを行いながら、本市の環境保全の在り方を模索していきたいと考えます。</p>

